

① 産業振興ビジョン 進捗状況報告書 (B. 商業の振興)

H22の現状と課題	<p>【商店街、個店を取り巻く課題】…価格競争激化、経営者の高齢化、後継者不足等による経営環境悪化 → 商店会活動活性化、後継者対策等に係る支援が必要</p> <p>【商業者経営を取り巻く課題】…厳しい経済状況などにより、商業者は資金調達等が困難 → 資金調達の円滑化、経営相談等に係る支援が必要</p>
------------------	--

大施策	中施策	ビジョン期間中の主な取組と成果
1. 商店街活動の活性化	(1)商店街の活性化	①街中にぎわい推進事業補助金…商店街への集客活動（イベント、HP等）や、商店街機能維持（街路灯LED化、防犯カメラ設置）を支援
	(2)情報化の推進	②商店街街路灯維持管理補助金…商店街の活性化・安全の確保を推進
	(3)商店街の環境整備	③佐倉市商店街空き店舗等出店促進補助金…商店街の空き店舗を使って出店する事業者に対して経済的支援
	(4)空き店舗対策	④平成24年、8年ぶりに産業まつりを復活。市内商業・サービス業の啓発を推進 ※佐倉商工会議所…主な取組 ・商店会等団体活動支援事業補助により、商店会連合会等が行う各種イベントや環境整備等を支援 ・地域経済活性化、市民の生活支援を目的として、プレミアム商品券事業を平成26年度、27年度に実施 ・商店会が行うイベントや環境整備について、各種国・県補助金を受けるために必要な情報収集、資料作成等の支援
2. 個店の魅力向上	(1)経営革新	①佐倉市商店会連合会及び佐倉商工会議所商業部会の「得する街のゼミナール『まちゼミ』」による個店PR、新規顧客開拓を支援 ※佐倉商工会議所
	(2)魅力ある個店の形成	佐倉Y.M.Oプロジェクト（地域資源である「ヤマトイモ」「味噌」「お茶」を活用した新商品・メニューの開発）の実施 →17店が参加し、発表会&試食会や、スタンプラリーを実施し、各店のPR
3. 商業者への経営支援	(1)中小企業支援体制の充実	①市制度融資により、市内商業・サービス業者の円滑な資金調達を支援 ②国・県と連携し、定期経営相談会「千葉県よろず支援拠点サテライト相談所」を開設（月1回）※印旛地域で3自治体のみ
	(2)経営支援情報の発信	※佐倉商工会議所 ・中小企業の経営支援に係る各種相談・指導、専門家派遣等 ・日本政策金融公庫等と連携した金融斡旋、融資手続き等により商業者の経営を支援

指標	計画前 (H22)	中間 (H27)	現状値 (H30)
商店会主催の集客イベント数	9 (H23)	13	12
上のうち市の支援を受けたイベント数	9 (H23)	13	8
街路灯維持管理商店会数	16	14	14
空き店舗補助利用件数 (H27～累計)	－	3	12
融資実績件数 (件/年)	26件	27件	26件
経営相談会 (よろずサテライト) 開催回数	－	月1回	月1回
商店会空き店舗数 (件)	216 (H23)	221	239 (H29)

次期ビジョンで取り組むべき課題等
1. 各商店会の集客イベントが活発化、浸透してきたが、継続的な来街者の増加、日常的な賑わい創出には更なる取組み強化が必要
2. <u>経営者の高齢化や個店の廃業</u> などによる会員数の減少等により、街路灯管理が困難になる商店会が増加傾向
3. <u>商店街の空き店舗対策</u> を実施しているが、まだ市内には相当数の空き店舗が存在しており、今後も対策が必要
4. <u>よろずサテライト</u> は、国・県の協力を得て開設した、事業者の経営課題を専門家に無料で相談できる貴重な機関。市内既存企業への周知を通じた、 <u>更なる利用促進</u> が必要

②産業振興ビジョン 進捗状況報告書 (C. 工業等の振興、 E. 伝統的工芸の振興)

H22の 現状と 課題	<p>【製造業を取り巻く課題】…企業交流機会の不足、経営環境の変化 → 企業間交流、高付加価値製品の開発が必要</p> <p>【建設業を取り巻く課題】…経営体力低下 → 人材育成、若年人材の確保が必要</p> <p>【中小企業の経営を取り巻く課題】…景気の低迷等により資金確保が困難 → 経営革新や新市場・新規事業への進出に向けた資金調達の支援が必要</p> <p>【既存企業振興を取り巻く課題】…周辺環境の変化による市内企業流出の懸念 → 既存企業が市内で事業を継続するための支援が必要</p>
----------------------------	--

大施策	中施策	ビジョン期間中の主な取組と成果
製造業の振興	(1)ネットワークの構築	①佐倉工業団地連絡協議会・佐倉第三工業団地連絡協議会の活動を支援（意見交換会、研修会 等） ②工業団地連絡協議会からの要望（主にインフラ環境等に関するもの）を受け、関係機関と折衝等の対応
	(2)市内製造業等の啓発	③産業まつりを開催し、市内産業の啓発及び事業者の交流機会を創出
建設業の振興	(1)ネットワークの構築	①産業まつりにて建設・リフォーム事業者が出店し事業をPR
	(2)需要の喚起	②佐倉市優良建設業者表彰及び佐倉市上下水道事業優良建設業者表彰を行い、事業者意識を向上
中小企業の 経営支援	(1)各種相談業務・融資制度の充実	①市制度融資の新メニューの創設（創業支援等）、既存融資要件の緩和（本社要件撤廃、第二創業を融資対象に）により、市内事業者の資金調達の円滑化支援 ②国・県と連携し、定期経営相談会「千葉県よろず支援拠点サテライト相談所」を開設（月1回）※印旛地域で3自治体のみ ③「佐倉市導入促進基本計画」を策定、国の同意を受け、「先端設備導入計画」を策定した事業者の取得設備の固定資産税を軽減（支援8社） ④製造業の多い市内企業の生産性向上や事業の高付加価値化を支援するため、県のIoT活用セミナーを誘致（今年は県内4カ所で開催）。参加事業者数9社 ※佐倉商工会議所 ・中小企業の経営支援に係る各種相談・指導、専門家派遣等を実施 ・商業・サービス業部会、工業部会等が会員を対象とする研修会・セミナー開催 ・日本政策金融公庫等と連携した金融斡旋、融資手続き等を行い、事業者の経営を支援
	(2)人材育成	
既存企業の振興	助成制度の充実	①従来新規立地のみを対象としていた企業立地促進助成金について、既存企業の建屋増築、設備増設等も対象とし、既存企業の再投資を促進（4社、9件）
伝統的工芸の支援	伝統的工芸の保存及びPR	①2名の伝統工芸品製造者（和弓の矢、下総組紐）が行う小中学生の見学と実演等の活動に対して、佐倉市伝統的工芸品産業保存育成事業補助金による支援実施

指標	計画前 (H22)	中間 (H27)	現状値 (H30)	次期ビジョンで取り組むべき課題
産業まつり来場者数(人/年)	-	9,000 (H26)	13,500	<p>1. <u>産業まつり</u>は再開以降8回の開催を経て、来場者は順調に増えているが、出展者は横ばいでメンバーが固定しており、<u>効果的な産業啓発・事業者交流機会</u>とするための検討が必要</p> <p>2. 先端設備導入計画で設備投資を行った企業は8社/年に留まっており、より多くの<u>中小企業の生産性向上</u>に向け、効果的かつ波及力の高い支援を行うことが必要</p> <p>3. IoTセミナーは<u>生産性向上や人手不足の解消</u>に有効な取組。企業の関心を喚起し、参加数を増加させることが必要</p> <p>4. <u>市内企業の再投資</u>を支援する補助金は有効な取組。国・県の支援も併せて、今後も更に進めることが必要</p> <p>5. 圏央道の開通等の周辺環境の変化による市内既存企業の市外流出が懸念さる。引き続き<u>既存企業への支援</u>が必要</p>
経営相談会開催回数	-	月1回	月1回	
経営相談会相談件数（/年）	-	31件	25件	
市内企業の再投資支援事業件数 (H23から累計)	-	4	9	

③ 産業振興ビジョン 進捗状況報告書 (F. 新たな産業の振興、G. 基盤の充実)

H22の現状と課題	<p>【企業誘致に係る課題】 市内工業団地等の区画は既にほぼ利用されており、産業用地が不足 → 新たな産業用地確保に係る研究が必要</p> <p>【起業に係る課題】 …起業希望者の経済的・技術的負担大 → 起業を行うための拠点や情報に係る支援が必要</p> <p>【人材確保・育成に係る課題】 …団塊世代の大量退職、少子高齢化の進行に伴う将来の労働力不足 → 多種多様な産業人の育成、若年層の職業観や就業意欲の醸成、高齢者の就労に係る支援が必要</p>
------------------	--

大施策	中施策	ビジョン期間中の主な取組と成果
企業誘致の促進	(1) 推進体制の整備	①企業誘致に関する特設サイト「企業立地ガイド」を開設し、周知強化 ②産業振興課内に「企業支援ワンストップサポートデスク」を設置。企業からの立地に関する相談、必要な手続きや協議等を円滑化
	(2) 助成制度の充実	①企業誘致助成制度のメニュー追加、支援額拡大、対象業種拡大を行い、新規立地企業4社に対して、企業誘致助成金を交付
	(3) 企業誘致に関する調査・研究	①企業誘致に関する調査を行い、市内外の事業者のニーズや新たな産業用地の可能性について研究
起業の支援	(1) 起業のための拠点、情報の提供	①「創業支援事業計画」に基づき、起業塾の開催や相談窓口設置等を実施。創業者の登録免許税軽減や、融資面でのサポート拡充等支援 ②市制度融資に創業支援等のメニュー追加。「商店街空き店舗等出店促進補助金」を創設し、創業者の商店街進出を支援 ③「佐倉市スマートオフィスプレイス（コラボサクラ）」を設置。シェアオフィス機能、コワーキングスペース機能をもった拠点を整備し、事業立上げを支援
人材の確保と育成	(1) 人材の確保	①地元雇用を促進するため、市民を雇用した場合の地元雇用促進奨励金について、「1年限り一人6万円」を「1年当たり一人10万円を3年間」に拡大 ②さまざまな世代・層の就業を支援する「中高年の再就職支援セミナー」「女性のための再就職支援セミナー」（千葉県ジョブサポートセンターと共催）、「就活基礎セミナー」（ジョブカフェちばと共催）、「シニア従業員のお仕事説明会in佐倉」（セブンイレブン・ジャパンと共催）等を開催 ③産業まつりについて、小中学生の来場を視野に、市内産業を啓発。また近隣高校進路指導担当教諭を招待して市内事業者を紹介、両者のマッチング実施 ※佐倉商工会議所
	(2) 人材の育成	・高等学校・企業就職情報交換会を開催。市内事業者と高校新卒者とのマッチング実施 ・市内企業合同新入社員教育講座や、経営強化や人材育成に係る研修会・講座等開催
連携の強化	(1) 産官学連携	①県と連携し、「ちば起業家交流会」を開催（今年は県内6カ所で開催）。創業者と支援機関、既存企業を結び付ける機会提供（参加者152人） ②国立歴史民俗博物館の企画展示「ニッポンおみやげ博物誌」の開催と合わせ、歴博、市内企業、農業者等と連携して地元産品販売を歴博で実施 ※佐倉商工会議所 ・佐倉Y.M.Oプロジェクト（地域資源である「ヤマトイモ」「味噌」「お茶」を活用した新商品・メニューの開発）の実施 →17店が参加し、発表会&試食会や、スタンプラリーを実施し、各店のPR

指標	計画前 (H22)	中間 (H27)	現状値 (H30)
企業誘致助成企業数 (H16 (制度開始) からの累計)	11社	12社	14社
起業支援事業を受けて創業した件数 (累計)	-	3件	22件
市主催の起業に関する啓発イベント (研修、講演会等) の参加者数 (／年)	-	147人	95人
就職情報交換会参加事業者／参加高校数	-	107社／40校	97社／32校

次期ビジョンで取り組むべき課題等
<p>1. 企業立地のニーズは増加傾向で、新規立地や既存企業の再投資促進は順調に増加している一方、市内の既存産業用地の区画ほぼ埋まっており、本市への進出希望を持つ企業に対する誘致が困難。<u>新規用地の研究が必要</u></p> <p>2. <u>コラボサクラ</u>は、シェアオフィスは順調に利用されている一方、コワーキングスペースは更に多くの<u>利用増進を図る</u>ことが必要。 また、環境整備や情報提供、新たなビジネスの創出に向けた起業家同士の交流機会の提供等が必要</p> <p>3. <u>高齢者の就業支援機会</u>に対する需要が増加。今後高齢者が増加することで、その需要は更に高まることが想定されるので、これを受け止める支援が必要</p> <p>4. <u>若年者の就業支援</u>について、行政と高校生・大学生との接点が少ないため、彼らへのアプローチが難しい状況。産業まつりにおける高校進路指導担当教諭の来場は毎年3校程度にとどまっており、新たな展開や取組が必要</p>